

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和6年5月28日（火）

### 2 確認箇所

既設多核種除去設備（図1）

### 3 確認項目

既設多核種除去設備の現況

### 4 確認結果の概要

「増設ALPS配管洗浄作業における身体汚染(令和5年10月)」や「高温焼却炉建屋からの放射性物質を含む水の漏えい(令和6年2月)」など、汚染水処理設備に関するトラブルが連続して発生している。

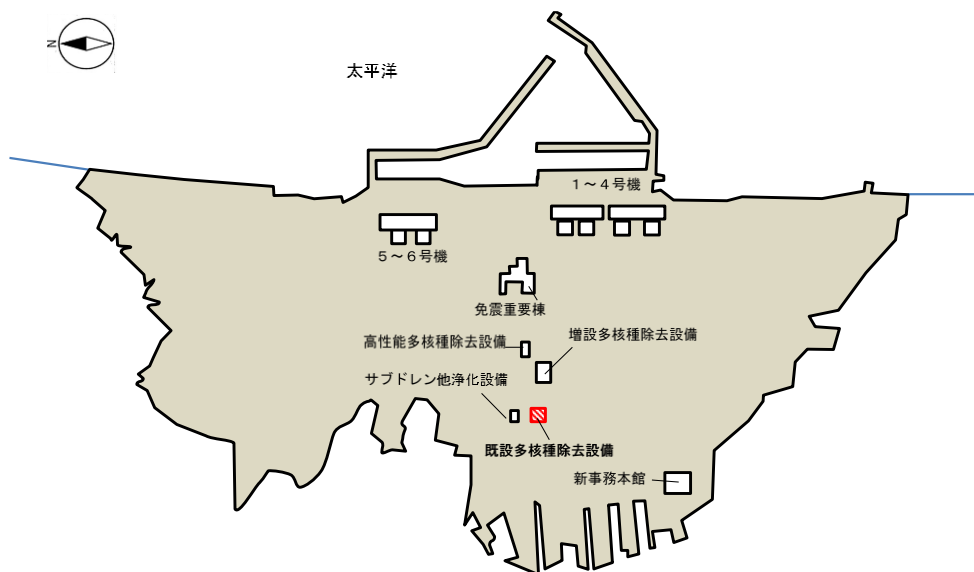
そのため、汚染水処理設備の運転状況や設備機器のメンテナンス状況を適宜確認している。本日は、既設多核種除去設備（以下「既設ALPS」という。）を確認した。（写真1）

なお、確認時における既設ALPSの運転状態は次のとおりであった。

A系：停止中 B系：循環待機中 C系：停止中

- ・ 現場確認時に、前処理設備の一つである共沈タンク※においてpH計の校正作業が行われていた。（写真2）
- ・ 校正作業にあたり、系統構成のための弁操作が行われていた。弁の操作時に、図面や弁番号が記載されたチェックシートを使って操作対象の弁を確認するとともに、操作指示の復唱や指差呼称を行いながら進められていた。（写真3）
- ・ 当該作業に従事している全員がカバーオールの上にアノラック（防水のカップ）を着用していた。
- ・ 上記作業状況の他、建屋内を確認した範囲では、配管からの漏えいや水たまり等の異常は認められなかった。

※ 共沈タンク：放射性核種を除去する上で阻害要因になる物質（Mg, Ca等）を薬品により沈殿させるためのタンク。この後段の吸着工程における放射性核種の除去性能を向上させる役割がある。



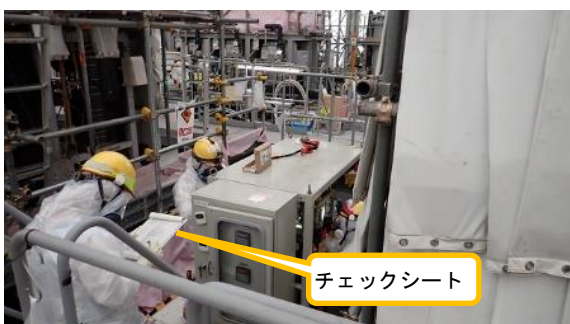
(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)  
既設ALPS建屋内の状況



(写真2)  
pH計の校正作業の状況



(写真3)  
作業手順の確認状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。